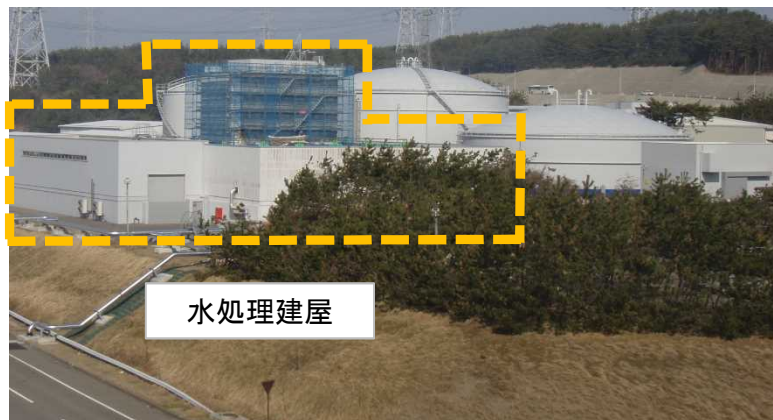


荒浜側水処理建屋外壁はがれの原因と対策について

<別紙>

【事象】

1月23日(火)午後0時20分頃、荒浜側水処理建屋上部 南面において、強風により鋼板外壁(南西部上部)の一部がはがれ、その後、南側外壁面がほぼ全面風にあおられ、はがれた。



【3月15日撮影】

水処理建屋上部



【1月23日 午後0時20分頃】



【1月23日 午後1時頃】

【現場調査】

現地調査を行った結果、笠木正面カバーの外れを確認した。



正常な笠木



外壁はがれ後の笠木



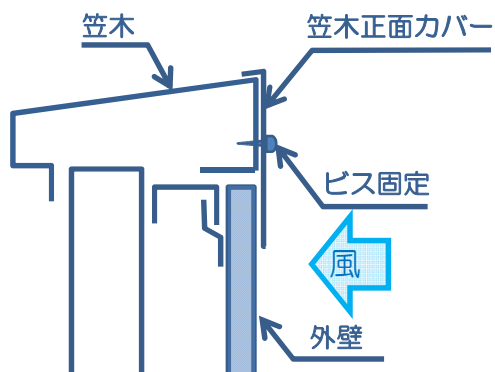
笠木正面カバー外れ

笠木(かさぎ)：外壁等の上部に付ける雨の侵入を防止するもの

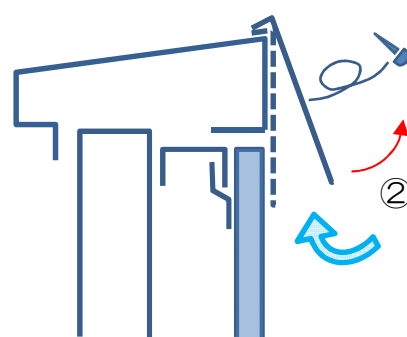
【推定原因と対策】

外壁がはがれた原因は、強風により笠木正面カバーが外れたことで強風が建屋内部に流入したことで発生したものと推定している。

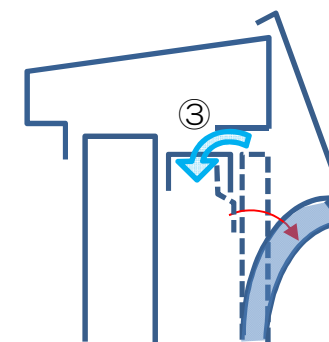
対策としては、当該壁(南面)については正面カバーの無い一体物の笠木を設置します。また、南面以外については笠木正面カバーの取付部を補強します。



①外壁面に強風が当たる。



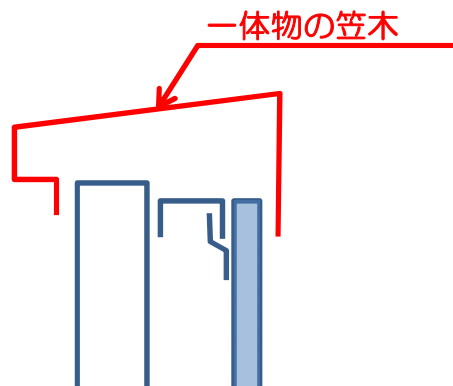
②強風で固定ビスが緩み笠木正面カバーが外れる。



③室内側へ風が吹き込み。内圧が増大することで外壁がはがれる。

対策

パターン1
(当該壁：南面)



パターン2
(南面以外)

